

## 学会ウェブサイトのアクセスログの分析 ー日本図書館情報学会のウェブサイトを対象としてー

水沼 友宏

学会は研究者にとって情報共有・情報交換の場として重要な役割を果たしており、国内の学会に所属する研究者は71.2%、研究者一人当たりの平均所属学会数は2.5学会にのぼる。また、総務省の調査によれば2010年時点で日本のインターネット人口は9408万人を越え、家庭におけるインターネットの普及率は78%に達した。このような状況のもと、学会の情報開示や広報の手段としてウェブサイトは一般化し、学会サイトの実態を明らかにする研究も少なからず行われている。学会サイトの実態調査は、主に開設状況、運用形態、および提供情報などを中心に行われている。アクセスログを用いた調査も行われてはいるものの、そのほとんどがサイトの一部分または全体の分析にとどまり、コンテンツごとのアクセス数の推移は公表されていない。また人間以外のアクセス除去が行われておらず、実際の利用量に基づく十分な検証に至っていないとは言えない。

そこで本研究では学会サイトのアクセスログデータの分析に基づく実態調査を目的として、利用者の属性、到達経路、各コンテンツの特徴などを明らかにする。分析対象はGoogle Analyticsで集計した2008年6月1日から2011年5月31日までの日本図書館情報学会のウェブサイト(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/>)のアクセスログデータ（訪問数78,735件／ページビュー数262,819件）である。

まず学会サイト全体の傾向を明らかにし、新規訪問者は直帰率が高いことが示された。次に、国・地域、言語、PC環境の観点から学会サイトユーザの特質を明らかにし、特に学会サイトユーザの95%以上が日本からのアクセス、または設定言語を日本語としていること、一般シェアと比べWindowsの利用割合が高いこと、ブラウザ・OSによって一般シェアと推移傾向が異なることが示された。加えて、時系列の分析によって、学会サイトが利用される時間は主に平日の9時から17時であることや、ユーザの図書館情報学検定試験の情報へのニーズが窺えた。また、海外からの訪問数、日本語以外の言語を設定するユーザの訪問数の比較を英語ページ設置前後で行った結果、英語ページ設置の効果が立証された。さらに、アクセス方法の分析を行うことで、検索エンジンをブックマーク代わりに使用する利用者の存在が窺えた。直帰率が低く、訪問別ページビュー数が多く、リピート率が高い効果的参照元は、[slis.tsukuba.ac.jp](http://slis.tsukuba.ac.jp)からの訪問、ノーリファラー、Googleを用いた訪問、検索キーワード「jslis」などによる訪問で、効果的なコンテンツはトップページからリンクが貼られているページ、学会誌、検定試験関係のページであることが示された。最後に、PageRankの分析によって学会サイトの需要と構造が一致していることが立証された。

これらの分析結果から、英語ページ増設、および図書館情報学検定試験のページとトップページのデザインの統一という2つのサイトデザイン案が示唆された。

(指導教員 池内淳)